
蛇の巣

無大琥子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蛇の巣

【Nコード】

N3921B

【作者名】

無大琥子

【あらすじ】

家に帰ってくると、いつもと違う。同居人が出て行ったのだ。

2LDKの部屋は一見いつもと変わりなかったが僕は異変を感じとった。

玄関には彼女の派手なサンダルと僕の黒い革靴。だが彼女のスニーカーがない。

中に入り真っ直ぐ彼女の部屋をあけた。今朝と同じように床には木製の化粧箱が置かれ、パイプ式の吊しにはワンピースがぶらさがっている。しかしスポーツバッグがなかった。彼女がうちに飛び込んで来た時に持っていたものだ。窓の下にあったはずだ。舌打ちと同時に携帯電話が鳴った。

「なんで出ていく」

いきなり言ってやったら相手はたじろいだ。

「ご、ごめんなさい、私、帰る」

「アル中母さんと暴力父さんだけ？逆だったかな？高校もつまらないし家はまるで蛇の巣、私には居場所がない、そう言っていたよね」

「ごめんなさい、ほんとに感謝してる」

「家事をしてくれる代わりに僕は無料で寝る場所を提供した。約束通り君には指一本触れてない。それでなんの不満が？」

「ありがとう、でも決めたの、よく考えて」

「それにしても随分あわてて出て行ったね」

彼女は口をつぐんだ。僕は苛立った。

「いろんなものが置きっぱなしだよ、これは当然取りに戻ってくるんだろう」

「ごめんなさい、全部処分していいから」

「君のガラクタの処分を僕に押し付けるのか？冗談じゃない、君は」電話は切れた。僕は床にプラスチックの塊を叩きつけた。ポケットからハサミを取り出した。彼女のワンピースに刃を当てた。そし

て一気に切り刻む。猫にいたぶられる鳥の羽のように糸くずが舞った。なぜだ。なぜ出て行った。

切っても切っても飽き足らない。粉々のワンピースを踏みしめた。

僕は再び玄関で靴をはいた。目に止まった彼女のサンダルをドアに何度も打ち付けた。ヒールがおれてぶらりとなった。

おろかな彼女を助け出さないと。蛇の巣から助けてあげないと。意味が分からない。出て行く理由がない。

それとも、巣の外に蛇より邪悪なものがいたとでもいうのか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3921b/>

蛇の巣

2011年1月6日14時49分発行